

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100439		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム勤修Ⅱ番館 1F		
所在地	京都市山科区勤修寺西金ヶ崎238番地		
自己評価作成日	平成24年10月24日	評価結果市町村受理日	平成25年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2674100439-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaiokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2674100439-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

車の通りも少なく、閑静な住宅街にある事業所という立地条件を活かして、利用者さんに外出していただくことに力を入れて取り組んでいます。同様に近隣の商店への買い物も機会を作り取り組んでいます。一昨年より町内会に入会させていただくことができ、まだまだ地域交流の機会は少ないですが、地域で繋がりを生活していくこと、事業所が地域に根ざしていくことに今後繋がっていくように、少しずつではありますが交流の機会を重ねています。また3ユニットの事業所であることの利点を活かして、ユニット間での交流を通して利用者さん楽しんでいただける機会を作っています。自然と交流をしていくことで、ユニットのなかだけではなく馴染みの関係を築くことにも繋がっていかばと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、利用者のその人らしい暮らしを大切に支援して行きたいと考え、外出や日々の暮らしの中でその人が楽しめる時間を大切にされた個別の支援に力を入れています。日常の関わりの中で利用者の行動や発言、表情などを記録に残して詳細なアセスメントを行い、職員間で一人ひとりの思いの背景を話し合い、日々の支援に活かしています。また、地域の夜間パトロールや防災訓練に参加したり、保育園児の保護者や町内会の方を対象とした地域包括支援センターが主催する認知症を理解してもらう為の講座で管理者が講師を務めるなど、地域で役割りを果たしながら交流が深まっています。管理者はじめ職員は良好な関係が構築できており、互いに協力や分担しながら会議などで意見を出し合い、事業所理念の下、利用者のありのままを受け入れた暮らしの支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念については、毎日唱和することで共有化を計っている。事業所としても管理者を中心に理念を作り理念をもとにした実践に取り組んでいる	法人理念の下、職員で意見を出し合い「ありのままの姿で笑いあい暮らしを共に支えあう・・・」などの自分たちらしさを取り入れた事業所理念を掲げています。理念は職員が意識できるようカンファレンスのレジメや季刊誌などに載せると共に、日々の関わりが理念に基づいているか確認しながら支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域の町内会に加入しており、利用者が参加可能な取り組みについては参加していきたいと考えている、近隣の保育園との交流やボランティアさんの来訪などの機会がある	自治会に加入し、回覧板などから情報や案内をもらい、地域の祭りや防災訓練、運動会、夜間パトロールに職員が参加しています。保育園から招待を受け運動会を見に行き、園児と交流を持っています。ホームの秋祭りは子ども達を含む地域の方の参加を得て開催し、また、フラダンスなどの地域ボランティアの来訪もあり交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置事業所であることを、組長会議等にて発信している。また地域に向けての認知症サポーター講座を毎年実施している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会への加入の助言や、地域での取り組みの伝達など地域の情報をいただく機会となっている、事業所内で起こった事故報告等を行い助言を得る機会となっている	会議は利用者や家族代表、近隣団地の自治会長や地域包括支援センター職員などの参加を得て、2ヶ月に1度開催しています。ホームの近況やヒヤリハット報告などを行い、意見交換しています。参加者から自治会加入に向けてのアドバイスをもらい、加入が実現するなど、得られた意見を運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の内容を区役所の担当者に手渡している、GHの入退居についても同様に行っている、生活保護を受けておられる利用者さんの担当ケースワーカーの面会が年に2回ほどあり、その際にお話している程度であり機会としては多くない	役所から集団指導や研修案内などが届いた際には参加したり、運営推進会議の議事録は介護保険課の窓口へ直接届け、協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除いて玄関の施錠は行っていない、身体拘束をしないケアの重要性については研修等を通じても深める機会がある	法人の身体拘束に関する研修を受講し、会議の際などに伝達して周知すると共に、毎月行っている認知症に関する勉強会の中でも身体拘束や利用者の尊厳について話し合い、理解を深めています。日々の関わりの中で制止に繋がる言葉使いなどが見られた場合は改めて会議で話し合い、拘束のない暮らしの支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の研修に参加することで意識付けを行っている。		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には社外の研修への参加を促している、利用者さんの中には実際に制度を利用されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族と共に読みあわせを行い分かりやすく時間をかけて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから意見を言い易い関係作りを目指して、小まめな連絡を行うように努めている。また直接伺うばかりではなく、アンケートを実施したり、意見箱を玄関に設置している	日頃から気づいたことは何でも言うよう家族に伝え、意見を出しやすい環境作りを心がけています。来訪時や介護計画変更の際、また年に1度、法人によるアンケート調査が行われ、意見や要望を聞く機会となっています。出された意見やアンケートの集計結果は会議で話し合い、集計の結果や改善策などは家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスの機会職員一人一人の意見を出し合う場となっており、管理者ならびに各会のリーダーは言い易い場作りを努めている。また管理者は日々の中で職員とのコミュニケーションの機会を作り気軽に意見を言えるように配慮している	月1回のカンファレンスや年2回の個別面談の際、また日々の業務の中でも管理者は職員に意見を聞きながら、職員間で意見を出し合い、話し合の上で事柄を決めるよう努めています。会議で発言しやすいようテーマを決めたり、発言が少ない職員には事前に聞くなど配慮し、個々の意見を業務や運営に活かせるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特名でのアンケートを実施し職員個々の給与水準や労働時間に対する思い、やりがいの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としてキャリアパス制度を確立し各職員力量に応じた研修が用意されておりモチベーションにも繋がっている。法人外研修への参加についても機会がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での勉強会にも参加し交流の機会となっている。また地域での認知症サポーター講座を地域包括支援センター主導のもと他事業所と協力にて開催するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談にて本人の要望を確認し、それに合わせた形でケアプラン作成し、不安の軽減に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談だけでなくセンター方式記入していただく事とともに密な連絡を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式使用し、本人の身体的精神的状態を把握して往診や訪看、口腔ケア、マッサージ師などと連携をとっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に炊事をする事はもちろん、裁縫や必要物品の製作を共におこなうなど共同して生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人家族との外出を積極的に支援し、衣替えなど家族に行っていただける事をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族以外の来所もあるほか、行事の際など本人が慣れ親しんだ土地にでかけている。	友人が面会に来られた際には居室でゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。自宅へ一緒に荷物を取りに行ったり、信仰している寺参りに行き、いつも利用していた店で食事をしたり、また昔行っていた神社へ行く道中に子供の頃に遊んだ川を思い出されるなど、思い出や懐かしい場所などの記憶を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮しながら座席を設定し、炊事や作業を行う際も誘い合えるような環境を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も良い関係を続けていけるように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事メニューを選んでいただく事にはじまり、食事場所やタイミングを本人意向に沿って行うなどのように都度選択を提示している	入居時に希望や好み、生活歴など多くの情報を得て、入居前カンファレンスを開催し、職員間で情報を共有しています。入居後は利用者の快、不快や行動、発言などを掘り下げて思いの背景を探ったり、職員の気づきなどを出し合いながら、詳細で充実したアセスメントを作成し、思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から本人の生活歴や生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当日行った活動や様子について記録し、状態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成の際には本人をはじめ関係者の考えや希望を聴取した上で作成している。	アセスメントを基に利用者・家族の希望を聞き、利用者の発した声をそのまま課題として上げ、介護計画を作成しています。3ヶ月毎に評価を行い、評価を基にカンファレンスで意見を出し合い、3～6ヵ月で介護計画を見直しています。見直し毎に全職員の意見を取り入れた再アセスメントを行っています。必要に応じて医師や看護師の意見も反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをもとに介護日誌を記入すると共に申し送り、ミニカンファレンス行い情報共有、見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望をもとに窓下にプランターを設置するなどニーズをもとに様々な支援に取り組んでいる		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方が来てくださった際は参加促す。地域の美容院を利用したり、商店を利用している。近くのお店まで買い物をしに行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回は往診を受けている。何かあった際は往診医の携帯に電話し、指示を仰いでいる	入居の際にかかりつけ医を継続できることを伝えていますが、現在はほとんどの方が協力医に変更されていますが、外部への受診は家族が行い、受診結果は家族から報告を得て、協力医に伝えていきます。月2回協力医の往診や毎週歯科の往診、希望による口腔ケアも受けることができ、その内容は介護記録に残し家族にも伝えていきます。協力医や訪問看護師は24時間連絡が可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問以外でも電話にて受診の報告や相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	折を見て利用者の様子を見に行ったり、電話にて状態や気になる点について連携をとりあっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居さえる際に重度化の指針について説明を行い同意をいただいている、実際に終末期に近づいてこられた方については、管理者よりご家族さまへ今後の希望を踏まえて話し合いの機会を作っている	入居の際に看取りの指針に沿って説明を行い、家族や往診医などの協力が得られれば支援できることを伝えていきます。状態が変われば医師から説明が行われ、変化がある毎に医師や家族を交えて方針を話し合い、カンファレンスでも話し合っています。職員は勉強会などに参加し、学ぶ機会を持ちながら支援に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全職員が受講し、受講から期間が開いている職員については再度の受講を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行うとともに、自治会との連携も進めている段階である	年2回消防の指導の下、避難誘導や消火器の使い方、指示や伝達方法などの訓練を行い、独自にも隔月に、通報や設備点検などを繰り返し行っています。訓練は運営推進会議に合わせて開催することもあり、参加者の協力を得て共に行っています。また地域の防災訓練にも参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言語コミュニケーションがとりづらい人に対しても言葉掛けを行っている	利用者の尊厳やプライバシーについては理念にも謳っており、会議の際などに折に触れ話し合い、毎月の勉強会でも取り上げ、周知に努めています。日常的には目線を合わせたり、人生の先輩として礼儀を持って接するよう心掛け、不適切な対応があればその都度注意しています。新人職員が入った際などは、現任職員も新たに初心に戻り再確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助に拒否がある際は強引に行わず、希望を聞いたり、傾聴している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から訴えがある前にCWのほうから先を読んで好みの飲み物を提供したり、好きな時に喫煙できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗濯物を出していただけない方に対してさりげなく汚れ物を回収し、プライドを傷つけないよう行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の負担にならない範囲で食事準備や片づけを行っている。調理、味見、食器拭き、お椀拭き、配膳などしている	利用者と相談しながら発注した食材を見て献立を決め、足りない物は一緒に買いに行っています。一連の流れの中で関わってもらえる事を探し、下拵えや茶碗拭きに携わってもらったり、味見、一緒に雰囲気を楽しんでもらうことも大切にしています。流しソーメンやたこ焼き、家族に声をかけての立食パーティー、個別に希望を聞いて外食に出かけるなど、食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーを抑えた食事を提供したり、食べやすい形態にするなど細かく行っている。朝食のみ居室に配膳する方、毎食居室に配膳する方など習慣も尊重している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをすすめている。なるべく口腔ケアをしてもらえるような声掛けを工夫している		

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間から3時間おきに声掛けし意思を確認し個々のパターンにあわせてトイレ誘導を行っている	全員の方がトイレで排泄できるよう支援し、記録から個々のリズムを把握したり、尿意のサインを見逃さないよう声掛けや誘導を行っています。睡眠状況により夜間はパットを工夫したり、改善が見られる方は布の下着に変更してみるなど、職員間で話し合いながら現状が維持できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維質多いもの、野菜、きのこ、芋など常に取り入れ、水分補給チェックし、牛乳、ヨーグルトなどすすめている。昼間居室にこもらず家事、散歩、買い物、趣味などなるべく身体動かせるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間的には昼食後13:30ごろから16:30ごろまでの暖かい日のある間、毎日支援、利用者の体調、希望により3,4人ゆっくり入浴が出来るようにしている。利用者により週2~4回入浴する	入浴は夕方くらい迄の間で、概ね2日に1回程度入ってもらえるよう希望に沿って支援しています。入浴を拒む方はほとんどなく、体調などで入浴できない時は清拭で対応しています。季節のゆず湯や希望により入浴剤を使う方もあり、マンツーマンでゆっくり入ってもらい、入浴が楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に自由にさせていただいている。眠前薬の時間も一人ひとりに合わせて服薬していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	CW全員が処方薬説明書に目を通し、常に閲覧できるように保管。バイタルチェック、排尿排便、食事、睡眠など変化見られたときは往診医、訪看に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて無理をせず自ら家事に参加し役割が持てるよう支援、好みにあったおやつ、飲み物、音楽、情報などを提供する		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り少しでも戸外に出掛けられるよう支援、本人の希望を考慮し、家族や地域の人々と協力し出掛けられるようにしている	季節の桜や紅葉狩り、家族を誘ってホテルでの食事会などに出かけています。個別の希望を聞きながら京都の祇園祭や植物園などに出かけたり、仏花やおやつなどを買い出かけています。またホーム周辺の散歩や野菜の世話、テラスで外気浴などを楽しんでもらい、全員が外出できるよう支援しています。	



洛和グループホーム勸修Ⅱ番館(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布を持っておられ買い物、外出の時はポケットに入れていかれる利用者もおられ、購入の際も利用者を選択してもらう		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時にその都度対応して納得、安心してもらう		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にベンチ、花を置き廊下や居間にもソファを置き、四季折々の飾り付けを利用者で行う	リビングにはクリスマスツリーなど季節の飾り付けや、生花を欠かさないよう気を配り、季節感に配慮しています。好みのBGMを流したり、古く懐かしい飾り棚を置き、落ち着いた空間作りを工夫し、随所にソファやベンチが配置され、気の合った利用者同士で談笑したり、思い思いの場所を選んで過ごされています。職員は温湿度計を確認しながら利用者が寛いで快適に過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の位置を工夫し、気の合った利用者とは多く過ごせる。室外にベンチを置き自由に座りゆっくり過ごせる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前から使っていた家具、寝具を取り入れ、好みの音楽CDが居間で聴けたり、趣味の作品等飾ったりしている	入居時に使い慣れた家具を持って来てもらうように伝え、家具や装飾品、写真などを持ち込まれ、動線や安全面にも配慮しながら過ごしやすいよう配置されています。仏壇を置き花を供える方や手芸の道具などを持ち込まれる方など、安心して過ごせるよう配慮しています。夜間は濡れタオルをかけ、乾燥にも気を配っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立位むずかしい利用者の転倒防止にベッドでなく床に布団の方2名、洗面所横に個々の洗面具を分かるように置き、自ら洗面をするよう促す		